

サヴァン症候群の実態調査とその実践的価値

有 路 憲 一 関 口 あ さ か

キーワード：サヴァン症候群 発達障害 障害観 教育実践 障害児教育

1. 障害観を変える

「障害」とは何かと問われると、社会では普遍的には「何かができないこと」「何かに不自由なこと」として認識されている。しかし、私たち筆者は、障害に対するその認識の仕方のみでは、障害はいつまでも障害のまま変わらずあり続けるであろうと考える。「障害」を「できないこと」と当然の如く認識するのではなく、障害者が備える「できること」に注目することにより、「障害」をより肯定的に、より豊かに捉えることができるのである。これは、空想的且つ理想的な思索ではなく、私たちは数年来 **Seven Savants Project** という活動名の下、障害者の「できること」を伸ばす実践活動を行っている。その教育実践に於いては、障害者本人に「障害」を消すように努力させるのではなく、環境を変えたりテクノロジーを代替手段として活用し困難さを改善していくこと、また「障害」を「できない」と同義として見做すことはせず、障害者の数多くの優れた「できること」を観察し見出し、その能力を伸ばすことを目的とし実施している。障害者の「できないこと」ばかりに目を向けるのではなく、数多くの「できること」に注目し、その「できること」を伸ばす。そして、その様な実践実例を通じ、障害者も数多くの優れた「できること」を備え持っていることを社会に知らせることで、社会の在り来たり障害観—「障害」は「できないこと」という認識の在り方—を変える。つまり、「できないこと」から「できること」へと障害者の接し方を変えるということである。実の所、障害者に対する真の“障害”は、周囲や社会一般の障害に対する勘違い・誤解・無理解・無関心である。この実践活動を通じ、障害に対する誤解—例えば、障害者はできないことばかりで、できることは数少ない等—を減らしたい。

このような障害観を変える実践活動をより有効にするためには、**障害を正しく理解する**ということが極めて肝要である。障害についての何となくの所感ではなく、或る障害の能力特徴やパターンを定量的に数値化し、データとして記録・蓄積しておくことが、障害への正しい理解への礎となろう。しかし、筆者らの知る限り障害の能力特徴のデータは意外にも稀であり、それ自体が希少である。況してや非常に稀な障害(例えば、本稿で取り上げるサヴァン症候群 (Savant Syndrome))ともなると、世界的にも能力特徴の定量データは皆無である。このような学術的希薄さを背景として鑑みると、

障害の正しい理解を促すことは容易でないことが分かるであろう。

関口(2011)では、出現率が極めて低い障害であるサヴァン症候群の能力特徴を数値化しており、稀なサヴァン症候群の実態調査である。障害を正しく理解するのに不可欠なデータ及び一次資料が乏しいという現状に於いて、実態調査自体は十二分に価値を有するものである。その価値を記録として残しておきたい。障害のデータが欠如しているという文脈の中で、本論では関口(2011)を再考し、本稿が障害観を変えするという壮大な実践活動の一助になることを期待する。¹ 2000年初頭より経済協力開発機構OECDより証拠に基づく教育 (Evidence-based education) が求められているように (cf. OECD 2007)、実態を具に観察し、その像を或る程度把握した上で、証拠に基づき、障害に対する教育も実践されることが望ましい。偏った見方に晒され易い障害児教育・特別支援教育(障害がある子どもへの支援や教育)こそ証拠に基づく姿勢が必要であろう。証拠に乏しいと、障害を助長する恐れさえある。

2. サヴァン症候群

Kim Peek (1951-2009) は、驚異的な記憶力を持ち見たものを写真のように鮮明に記憶したり、9,000冊もの本の内容を一言一句完璧に記憶することができた。また、1988年4月26日は何曜日と尋ねるとその曜日を答えることもでき、アメリカの地図を細かく暗記しまるでカーナビのように案内できることから、彼はコンピュータにかけて「キムピュータ」と呼ばれていた。このように驚異的で天才的な能力を持つ一方で、彼は重度の知的障害があり、服のボタンも自分ではかけられず、常に父の支援を必要としていた。

彼のように障害を持ちながらも驚異的な能力を持つ人たちは、サヴァン症候群と呼ばれる。サヴァン (savant) とは、フランス語で“学者・博学”を意味し、サヴァン症候群は、自閉症や知的障害その他の発達障害または中枢神経系の損傷または疾患がありながらも、障害による全体的な制限とは対照的に驚くばかりの能力を持つ人々と定義される (Treffert & Wallace 2004; Treffert 2000, 2011)。人によりその驚異的な能力は様々であるが、具体的な驚異的な能力として、主に記憶能力、カレンダー計算 (Calendar calculating)、数学・数字能力 (Mathematical and number skills)、音楽、美術、機械的能力又は空間的能力 (Mechanical or spatial skills) がある。

また、サヴァン症候群者は、有する特異的な能力を基準に大きく3つに分類されている (Treffert 2011)。

1. Splinter skills (断片的な能力を有するサヴァン症候群者)

自閉症者児の10人に1人の割合で見られ、優れた記憶力を発揮する。

2. Talented (才能のあるサヴァン症候群者)

Splinter skills よりも顕著に卓越した特異的な能力を有する。障害による全体的な限界と比較してみるとその能力は顕著に際立っており、障害があることを忘れさせてしまう。

3. **Prodigious** (驚異的な能力のあるサヴァン症候群者)

Talented よりも想像を絶するほどの俄かには信じ難い驚異的な能力を幾つも有する。サヴァン症候群者の中でも、その能力は極めて優秀で、世界的にも注目を集める。そのような **Prodigious** に当てはまるサヴァン症候群者は世界的にも 100 人にも満たないだろうと推定されている。

3. サヴァン症候群の児童生徒に関する実態調査

近年ではメディア等でもサヴァン症候群を扱ったドキュメンタリーやドラマ等が放映されることもあり、サヴァン症候群への関心は多少の高まりは感じられる。² そのサヴァン症候群又はサヴァンという名称のみは知られつつあるものの、表層的な現象としてのみ知られ、且つ幾つかの驚異的な特異能力の“実例”のみが強調されるあまり、一つの障害群としての特徴が不測にも観察されにくくなっている。実際、サヴァン症候群の広汎な研究は数少なく、況してやサヴァン症候群の実態調査や実践教育報告は皆無である。本稿が再考する実態調査 (関口 2011) は、サヴァン症候群のよく語られる驚異的な特異能力を語るのではなく、一つの障害群としての実態を明らかにすべく多角的に詳細に調査したものである。³

3.1. 実態調査方法

長野県内の知的障害特別支援学校 2 校(以下 A 校と B 校)を対象に、サヴァン症候群の児童生徒に関する実態調査を実施。調査手法は、当該の知的障害特別支援学校 2 校に勤務する教員 67 名に対し、以下の様な質問紙により聴取した。⁴ 質問項目にはそれぞれ以下の様な判断基準を設け、児童生徒の該当する能力の程度に回答してもらった。

- 1 同じ (障害・知的発達・同年齢集団と比べて顕著に優れている)
- 2 健常児の同年齢集団と比べて顕著に優れている
- 3 他の高い年齢集団と比べて顕著に優れている (一般の大人でもなかなかできない)

質問紙の内容

すべてのページに以下のような表 1 があります。この表は質問の 1・2・3 と対応していますので、回答する児童生徒の能力に当てはまる質問を選び、その能力の程度を 1・2・3 の中から一つ選び○をつけて下さい。

【例】

表 1	<ol style="list-style-type: none"> 1 同じ 障害・知的発達・同年齢集団と比べて顕著に優れている。 2 健常児の同年齢集団と比べて顕著に優れている 3 他の高い年齢集団と比べて顕著に優れている (一般の大人でもなかなかできない)。
-----	---

Ⅰ サヴァン症候群の「記憶」に関する能力を持つ児童生徒についてお聞きします。

サヴァン症候群の「記憶」に関する能力を持つ児童生徒は、電話帳の番号や車の番号などの数字や、地図、バスや電車の時刻表、ある特定の時代や地域の歴史的事実、ある人物の経歴、天気、電化製品の型や製造、ある特定の分野の雑学的知識に強い興味を示し暗記することができます。以下の質問に当てはまる児童生徒が現在いる、または過去に出会ったことがありますか？(○をつけて下さい)。

① はい

「1 はい」 に○をつけた方は、以下の質問から児童生徒に当てはまる質問を選び、上記の表 1 の内容を参考に当てはまる番号に丸を付けて下さい。(以下Ⅱの質問も同様)。

2 いいえ(次の「Ⅱ カレンダー計算」へ)。

	質問	1	2	3
問 1	音楽やスポーツなどある特定の分野の雑学的知識に強い興味を示し、暗記している。	—	—	—
問 2	電話帳の番号やはがきなどの印刷版番号、車の番号など、ある特定の数字や番号に強い興味を示し、暗記している。	1	—	2 — 3 ○

上記の判断基準を参考に、「1 同じ」にのみ該当した児童生徒はサヴァン症候群として扱わず、今後サヴァンになる可能性があるとして「サヴァン予備軍」として分類した。⁵ 「2 顕著に優れている」に該当した児童生徒は **Splinter skills** (断片的な能力を有するサヴァン症候群者) に分類し、「3 顕著に優れている (大人でもなかなかできない)」に該当した児童生徒は **Talented** (才能のあるサヴァン症候群者) とした。⁶ なお、サヴァンの児童生徒と 2 人以上関わった経験がある教師は、そのうちの 1 人を選び、その児童生徒の障害や詳細な教育対応を回答した。

3.2. 実態調査結果

3.2.1. 実態調査結果 1. 教師のサヴァンの児童生徒と関わる経験の有無について

実態調査において回答が得られた特別支援学校に勤務する教師 67 人のうち、サヴァンの児童生徒と関わった経験がある教師は 37 人、関わった経験がない教師は 30 人であり、半分以上の教師がサヴァンの児童生徒と関わった経験があった(特別支援学校 A では、回答を得られた教師 24 人のうち 14 人がサヴァンの児童生徒と関わった経験を持ち、特別支援学校 B では、回答を得られた 43 人のうち 23 人がサヴァンの児童生徒と関わった経験を持つ)。どちらの特別支援学校でも教師のサヴァンの児童生徒と関わる割合は 50%を超えていた。

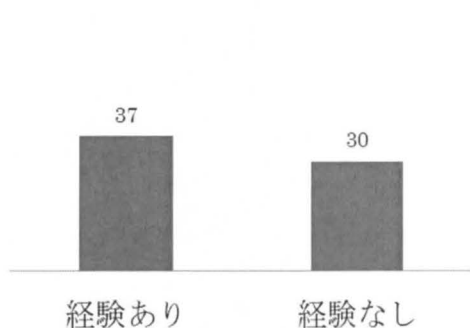


図 1.

教師によるサヴァンの児童生徒と関わった
経験の有無別の人数

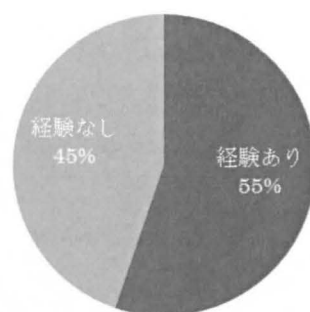


図 2.

教師によるサヴァンの児童生徒と
関わった経験の有無の割合

このうち、現在サヴァンの児童生徒と関わっている教師は 5 人であり、どちらの特別支援学校 A・B にもサヴァンの児童生徒が在籍しており、サヴァンの児童生徒と直接的でなく間接的に関わっている教師はさらに多くいることが予測される。

3.2.2. 実態調査結果 2. サヴァンの児童生徒について

今回得られた回答でサヴァンと思われる児童生徒(サヴァン予備軍を含む)は 72 人もいた。⁷ サヴァン症候群の驚異的な能力が強調されるあまり、サヴァン症候群の出現率は極めて稀であるという印象が持たれやすいが、本実態調査により、その出現率は決して小さくはなく、サヴァン症候群は謂わばどこにでもいる“普通”の障害であることがわかる。サヴァンと思われる児童生徒 72 人のうち 60 人が男性で、12 人が女性であり、そのおおよその比は男性：女性＝6：1 である(図 3)。サヴァンと思われる児童生徒の内、男性が 83%を占め、女性は僅か 17%であった(図 4)。つまり、ほとんどのサヴァンの児童生徒は男性であった。サヴァンの児童生徒に男性が圧倒的に多いということには、サヴァンには自閉症児が多いことも関係していると推察できる(自閉症スペクトラムの男女比は、概ね男性：女性＝4：1)。

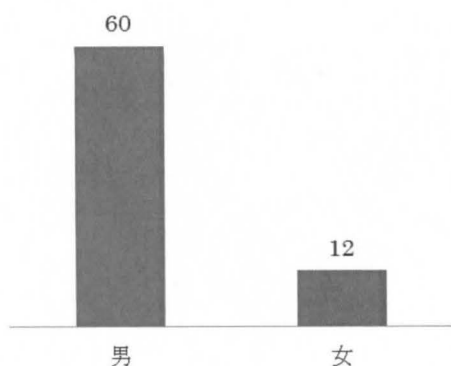


図 3.

サヴァンの児童生徒の男女数

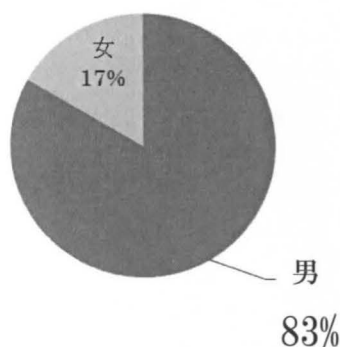


図 4.

サヴァンの児童生徒の男女比

今回の実態調査で能力に関して詳細な情報が得られた児童生徒は、51人であった(聴取調査にて児童生徒の能力の種類と程度に関する問いに詳細な回答があった児童生徒数 51 人)。最も該当する児童生徒が多かったのは、**Talented** (才能のあるサヴァン症候群者) で 33 人のサヴァンの児童生徒が該当した。**Splinter skills** (断片的な能力を有するサヴァン症候群者) に該当した児童生徒は 10 人で、サヴァン予備軍に該当した児童生徒は僅か 8 人であった。⁸

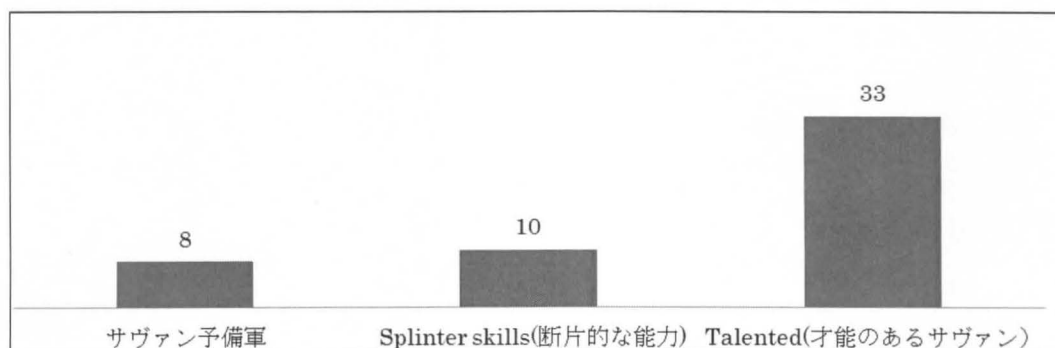


図 5.

サヴァン症候群の分類と該当したサヴァンの児童生徒の人数

最も多かった障害は自閉症で、28 人中 20 人が該当し、全体の 71%を占めている。次に多かったのは知的障害で、5 人の児童生徒が該当し、全体の 18%を占めている。なお、ここでは含まなかったが、診断は受けていない又は不明な児童生徒には、アスペルガー症候群であると周りの人たちが認識していたという子が 2 人いた。

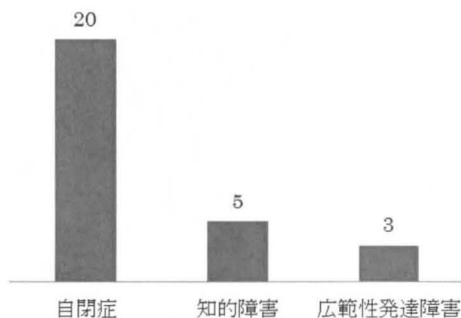


図 6.

サヴァンの児童生徒の障害種とその人数

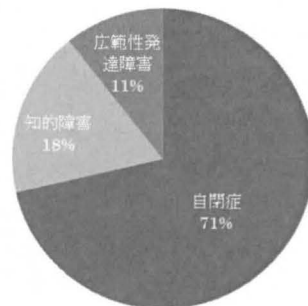


図 7.

サヴァンの児童生徒の障害種とその人数の割合

3.2.3. 実態調査結果 3. サヴァンの児童生徒の能力の分類

本実態調査にて得られた 72 人のサヴァンの児童生徒の能力の種類について述べる。なお、能力が複数該当した児童生徒は該当した能力すべての数に含め、またサヴァン予備軍の児童生徒も含めている。

今回の実態調査により見出されたサヴァン症候群者(72 人)に於いて、最も多かった能力は「記憶」に関する能力であり、40 人のサヴァンの児童生徒が驚異的な記憶能力を有している(特異的な能力全体の 45%を占めている)。次に多かった特異能力は、「カレンダー計算」に関する能力であり、24 人のサヴァンの児童生徒が有しており、全体の 29%を占めている。このように、記憶能力とカレンダー計算が主な驚異的な能力である。

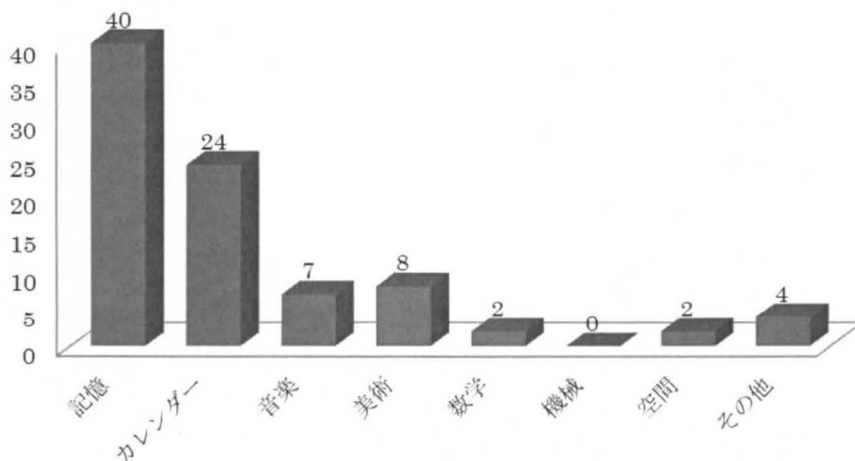


図 8.

サヴァンの児童生徒が有する特異能力の分類とその人数

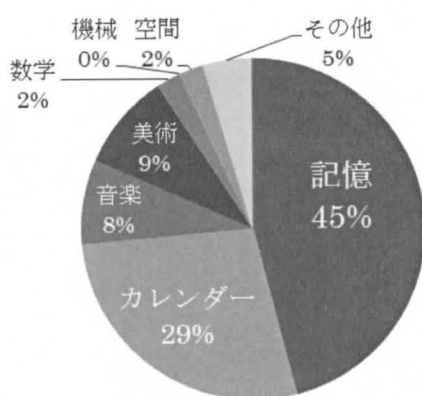


図 9.

サヴァンの児童生徒が有する特異能力の割合

3 番目に多かった能力は「美術」に関する能力で、8 人が該当しており、全体の 9% を占めている。4 番目に多かったのは「音楽」に関する能力で、7 人が該当しており、全体の 8% を占めている。「数学・数字」に関する能力と「空間」に関する能力は 2 人ずつ該当しており、それぞれ全体の 2% を占めている。「機械」に関する能力に該当するサヴァンの児童生徒は 1 人もいなかった。⁹

図 10 より、2 つ以上の能力に該当する児童生徒は 6 人で、このうち記憶とカレンダー計算の 2 つの能力を持つ児童生徒は 4 人、記憶とその他、数学・数字とその他の組み合わせで 1 人ずついた。

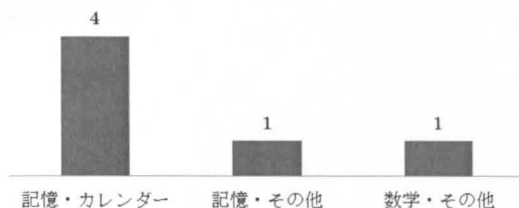


図 10.

2 つ以上の能力に該当するサヴァンの児童生徒の特異能力とその人数の分類

3.2.4. 実態調査結果 4. サヴァンの児童生徒の記憶能力について

本実態調査にて実施した「記憶」に関する能力の聴取調査の中で最も多かった回答は、「電話帳の番号やはがきなどの印刷版番号、車の番号など、ある特定の数字や番号に強い興味を示し、暗記している。」(調査項目 問 2)と「多くの特定の人物の生年月日に強い興味を示し、暗記している。」(調査項目 問 5)で、それぞれ 12 人のサヴァンの児童生徒が該当し、全体の 18%を占めている。この 2 つの調査項目は他のすべての特異能力に関する問いの中で、該当するサヴァンの児童生徒の数は 2 番目に多い。

次に多かったのは「その他ある特定のものに強い興味を示し、暗記しているものがある。」(調査項目 問 10)で 9 人が該当し、全体の 14%を占めている。具体的には、神経衰弱のトランプの配置や、これまでに他者と話した内容、他者との会話を一言一句正確に暗記しているサヴァンの児童生徒がいた。

続いて「自動車や家庭電化製品などに強い興味を示し、製造や型などを暗記している。」(調査項目 問 7)、「音楽やスポーツなどある特定の分野の雑学的知識に強い興味を示し、暗記している。」(調査項目 問 1)の順で多かった。

最も少なかったのは、「ある特定の時代や地域などの歴史的事実に

強い興味を示し、暗記している。」(調査項目 問 4)と、「今までの天気を暗記している。」(調査項目 問 8)で、それぞれ 2 人のサヴァンの児童生徒が該当していた。

下図 12 は、本実態調査にて実施した「記憶」に関する聴取項目(質問 問 1～10)と、その聴取項目に対しサヴァン症候群者 (①: サヴァン予備軍 ②: **Splinter skills** (断片的な能力を有するサヴァン症候群者) ③: **Talented** (才能のあるサヴァン症候群者))の回答数をまとめたものである。



サヴァンの児童(当時 6 歳)の作品
一度見た看板やロゴを直観記憶により実物に忠実に再現することができる

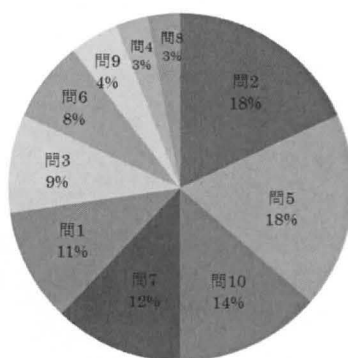


図 11.

「記憶」に関する特異能力のそれぞれの質問に回答されたサヴァンの児童生徒の人数の割合

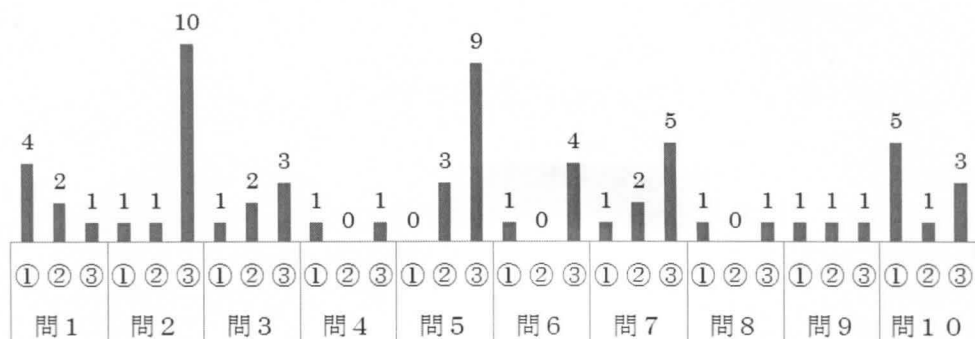


図 12.

「記憶」に関する聴取項目に該当するサヴァンの児童生徒の人数

顕著なのは「電話帳の番号やはがきなどの印刷版番号、車の番号など、ある特定の数字や番号に強い興味を示し、暗記している。」(調査項目 問 2)について 10 人の **Talented** (才能のあるサヴァン症候群者) が該当していたことである。更に、「多くの特定の人物の生年月日に強い興味を示し、暗記している。」(調査項目 問 2)についても 9 人の **Talented** (才能のあるサヴァン症候群者) が該当していた。¹⁰

3. 2. 5. 実態調査結果 5. サヴァンの児童生徒のカレンダー計算について

上述したように、サヴァンの児童生徒の特異能力として、驚異的な記憶能力の次に顕著であったのが、カレンダー計算であった(図 8 参照)。**Talented** (才能のあるサヴァン症候群者) では 18 人が、「特定の日にちの曜日を瞬時に言い当てることができる。(たとえば 2093 年 11 月 29 日は何曜日と聞くとその曜日をすぐに言い当てることができる)」(調査項目 問 11)。



図 13.

「カレンダー計算」に関する特異能力の質問項目に当てはまるサヴァンの児童生徒の人数

カレンダー計算への調査に於いて、「特定の日にちの曜日を瞬時に言い当てることができる。」(調査項目 問 11)に回答が集中した理由は、カレンダー計算の能力の程度がはっきりとわかりやすいということが考えられる。カレンダー計算は障害のない健常者の大人でも真似できるものではなく、その特異能力があるということは、それだけで目を引く。報告されたカレンダー計算能力を持つ児童生徒は、どの児童生徒もどの日にちを言われても瞬時にその曜日を答えることができた。また西暦だけでなく、元号でもその曜日を答えられる児童生徒も報告された。周りの人や好きな芸能人など、

興味のある人物の誕生日とその曜日を記憶している児童生徒もいた。

3.2.6. 実態調査結果 6. サヴァンの児童生徒の音楽能力について

音楽能力に関しては、「一度聞いた曲をピアノなどの楽器で正確に、または正確に近い状態で再現することができる。」(調査項目 問 12)が最も多く、6 人のサヴァンの児童生徒が該当した(その内 4 人が、**Splinter skills** (断片的な能力を有するサヴァン症候群者)であった)。他の音楽能力として、4 人のサヴァンの児童生

徒が、「一度聞いた曲をすぐに覚え正確に、又は正確に近い状態で歌うことができる。」(調査項目 問 13)であった。

Talented (才能のあるサヴァン症候群者)がそれぞれ 1 人ずつ、「一度聞いた曲をピアノなどの楽器で正確に、または正確に近い状態で再現することができる。」(調査項目 問 12)と「一度聞いた曲をすぐに覚え正確に、

又は正確に近い状態で歌うことができる。」(調査項目 問 13)の音楽能力を有していた(図 15)。

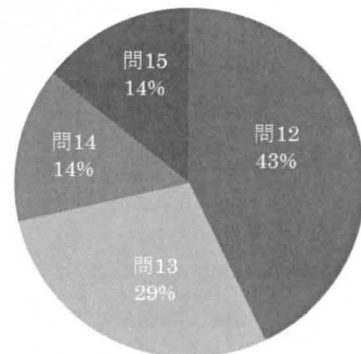


図 14.

「音楽」に関する特異能力のそれぞれの質問に回答されたサヴァンの児童生徒の人数の割合

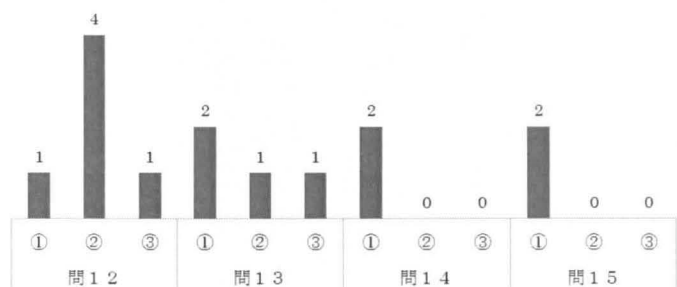


図 15.

「音楽」に関する特異能力の質問項目に当てはまるサヴァンの児童生徒の人数

3.2.7. 実態調査結果 7. サヴァンの児童生徒の美術能力について

本実態調査内でサヴァンの児童生徒が有していた美術能力とは、「ある対象物を正確にまたは正確に近い状態で描くことができる。」(調査項目 問 16)と「見た対象物を記憶し、正確に、または正確に近い状態で描くことができる。」(調査項目 問 18)であった。それぞれ、「ある対象物を正確にまたは正確に近い状態で描くことができる。」には 8 人のサヴァンの児童生徒が該当(全体の 28%)し、「見た対象物を記憶し、正確に、または正確に近い状態で描くことができる。」には 5 人のサヴァンの児童生徒が該当した(全体の 18%)。

具体的に報告された美術能力の例として、原色を使った色彩感覚に優れ、絵では生き生きした作品を製作し、また粘土(陶芸)の作品も動きのある作品(動物に限る)を作り入選経験のある子や、目の前にある花を細かな部分まで観察し、正確に描け、絵画の経験のある大人でも書けないほどの描写力がある生徒、ウルトラマン等の好きなアニメやゲームのキャラクターや道具を正確に描く児童生徒等がいた(cf. 有路 2013)。

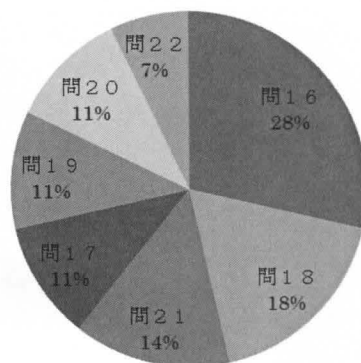


図 16.

「美術」に関する特異能力のそれぞれの質問に回答されたサヴァンの児童生徒の人数の割合

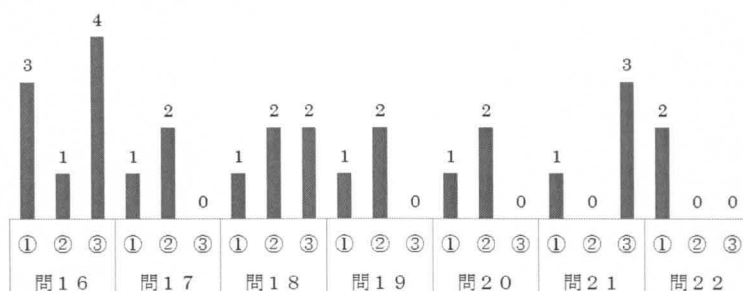


図 17.

「美術」に関する特異能力の質問項目に当てはまるサヴァンの児童生徒の人数

「美術」に関する能力で顕著だったのが、「ある対象物を正確にまたは正確に近い状態で描くことができる。」(調査項目 問16)で、**Talented** (才能のあるサヴァン症候群者) の4人が該当した。**Talented** (才能のあるサヴァン症候群者) では、「優れた能力によって美術コンクール等で入賞するほどの絵を描くことができる。」(調査項目 問21)も多く、3人が該当した。

3.2.8. 実態調査結果 8. サヴァンの児童生徒の数学能力について

本実態調査により、「数学・数字」に関する特異能力を有するサヴァンの児童生徒は非常に少ないことが判明した。「複雑な掛け算又は、割り算の問題の迅速に回答することができる。」(調査項目 問23)に該当するサヴァンの児童生徒(**Splinter skills** (断片的な能力を有するサヴァン症候群者))が1人のみであった。

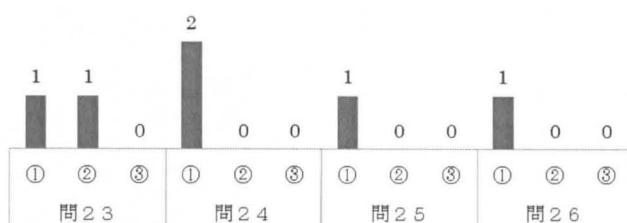


図 18.

「数学」に関する特異能力の質問項目に当てはまるサヴァンの児童生徒の人数

3.2.9. 実態調査結果 9. サヴァンの児童生徒の機械的又は空間的能力について

「機械的又は空間的能力」に関する特異能力は、サヴァンの児童生徒(**Splinter skills** (断片的な能力を有するサヴァン症候群者))では「その他空間的な認知に関して才能がある児童生徒がいる。」(調査項目 問34)に1人いたのみで、調査結果より「機械的又は空間的能力」は非常に稀な特異能力ということがわかる。なお、そのサヴァンの児童生徒の具体的な空間的能力は、地図を見て高速道路のインターチェンジ、サービスエリアの名前、起点地からの距離を記憶する能力であった。

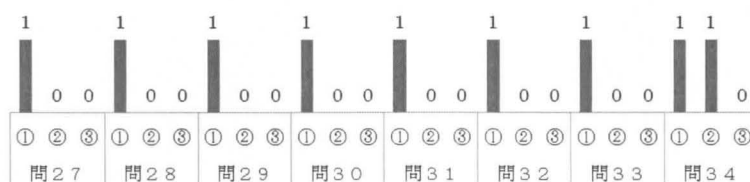


図 19.

「機械的又は空間的能力」に関する特異能力の質問項目に当てはまるサヴァンの児童生徒の人数

3.2.10. 実態調査結果 10. サヴァンの児童生徒のその他の能力について

その他の能力としては、「音楽、美術、数学、機械、空間認知以外のある特定の分野の大会で優れた能力によって好成績をおさめている児童生徒がいる。」(調査項目 問39)―具体的には、百人一首の大会の4年生以下の部で優勝した児童―や「音楽、美術、数学、機械、空間認知以外のある特定の分野で才能のある児童生徒がいる。」(調査項目 問40)という報告があった。

3.2.11. 実態調査結果 11. サヴァンの児童生徒に対する学校内及び学校外での特別な支援や教育の有無

関口(2011)による実態調査で詳しい回答を得られたサヴァンと思われる児童生徒 31 人のうち、学校内で特別な支援や教育を受けていた児童生徒は僅か 4 人であり、全体の 13%にとどまった。^{11 12} その他 27 人のサヴァンの児童生徒は、その特異能力は教師に把握され認められていたものの、残念ながら特別な支援や教育は受けていなかった。このように、サヴァンの児童生徒の多くが学校内で特別な支援や教育を受けていない実態が明らかとなった(なお、この実態調査の回答の中に、現在サヴァンの児童生徒の担任をし、担当するサヴァンの児童生徒の能力を更に伸ばしたいという願いがあるものの、どのような支援や教育が最適かわからず、結局のところ何もできずにいるという回答があった)。

報告された学校内での特別な支援や教育のほとんどは、能力を生かすための環境づくりにとどまり、能力をさらに伸ばすための支援や教育は、コンピュータでの画像処理方法の教授の例を除いて、ほとんど行われていなかった。

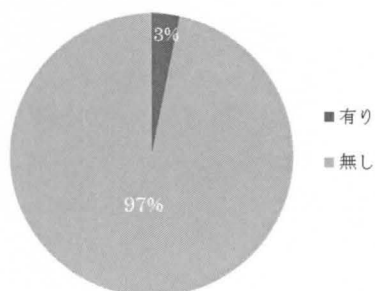


図 21.

サヴァンの児童生徒に対する学校外での特別な支援や教育の有無

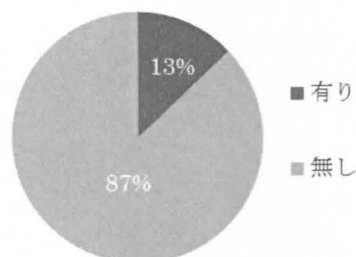


図 20.

サヴァンの児童生徒に対する学校内での特別な支援や教育の有無

なお、学校外での支援や教育となると皆無であった—サヴァンの児童生徒 31 人のうち、学校外で特別な支援や教育を受けていた児童生徒はわずか 1 人(音楽の優れた能力を持つ児童が音楽のレッスンを受けていた)であった。教師にサヴァンの能力を認められているものの、学校外で特別な支援や教育を受けていなかった児童生徒は 30 人で、全体の 97%を占めている。つまり、サヴァンの児童生徒のほとんどが、優れた能力を持ちながらも、それを更に伸ばすような学校外で特別な支援や教育は受けられていないのである。

3.3. 実態調査結果の考察

3.3.1. サヴァン症候群の実態

今回のサヴァン症候群の実態調査で幾つかのことが判明した。まず、今回の実態調査は 2 校の知的障害特別支援学校が調査対象であったものの、サヴァン症候群者は想像以上に多く存在していることがわかった。一県内の僅か 2 校に、72 人もサヴァン症

候群者(サヴァン予備軍から **Talented** まで含めて)がいるというのは驚きである。

そのサヴァンと思われる児童生徒 72 人のうち 60 人が男性で、12 人が女性であり、そのおよその比は男：女＝6：1 であった(3.2.2. 参照)。Treffert(2011)では、サヴァン症候群の出現率を男女凡そ 6：1 の比率で生じるとしており、今回の実態調査は Treffert(2011)が示す通りの結果となった。最も多かった障害は自閉症スペクトラムで、全体の 71%を占め、サヴァン症候群は自閉症児に現れる確率が他の障害と比べ高い。自閉症スペクトラムは男児に多く発症するため、サヴァン症候群も男児に多く現れたと考えられる。

顕著な特異能力としては、「記憶能力」と「カレンダー計算」が多く、多くのサヴァンの児童生徒が、これらの特異能力を有していた(3.2.3. 参照)。「数字・数学」「音楽」「美術」「空間認知」とどの特異能力にも広義の記憶力は関係してくるが、Kim Peek も「記憶能力」と「カレンダー計算」の 2 つの優れた能力を持っていたことから、特に「記憶能力」と「カレンダー計算」には深い関連があるのではないかと考えられる。

3.3.2. サヴァンの児童生徒への特別な支援や教育

本実態調査より、調査した半分以上の教師がサヴァンの児童生徒と直接的に関わった経験を持ち、どの教師にもサヴァンの児童生徒と直接的に関わる経験を持つ可能性があることが明らかになった(3.2.1. 参照)。また、今回調査対象となったどちらの知的障害特別支援学校にもサヴァンの児童生徒が在籍しており、学校に勤務する教職員全員が、直接的でなくとも間接的にサヴァンの児童生徒に関わる可能性は十分にあると考えられる。近年、特別支援教育は教師間で児童生徒の情報を共有し、児童生徒への教育を考え実施することが重要であるとされており、そのため、複数の教師がサヴァンの児童生徒の支援や教育を考え、その支援や教育の実施を求められていくことが予想される。より多くの教師がサヴァンの児童生徒と関わる機会がこれまで以上により増えていく可能性は十分あると言える。¹³

4. サヴァン症候群への教育のひとつの教育実践

関口(2011)の教師への聴取調査で、「高等部卒業後、サヴァンの児童生徒 C3(仮称)の学年は毎年学級会をやっているが、C3 は欠席が続いている。こだわりが強い自閉症であることから、親子さんが消極的になっているのかもしれない。」という回答があった。このことは、能力がありながらも、その能力が生かせず、また認めてもらえず、親がその子の能力よりも「障害」に囚われてしまい、その子の外に出る機会を結果的に奪ってしまっていると思われる。Treffert(2011)は、両親や他者からの正しい理解や賞賛はサヴァンの能力を伸ばす上で非常に重要であり、両親や親族、友人、教師またはセラピストが、その子の劣っているところではなく、長所を見て、障害より才能により関心を向けることが重要であると述べている。また両親や教師、友人など周りの

人々の支えや賞賛、正しい理解や評価によって、サヴァン症候群者は持つ優れた才能を大きく伸ばしたり、発揮することができる。逆に、周囲の人々がその際立つ才能に気付かない、または関心がなく支援や賞賛などを行わない、その能力を活かす機会を与えないということは、彼ら彼女らの才能は伸びず、その能力を発揮することはできないということであり、C3 の回答の例はまさにこの例であると言える。このような障害者への支援の在り方や、障害時教育への意識改革―障害観を変える―が肝要であると私たち筆者は強く感じている。

実際に、サヴァンの児童生徒の能力を伸ばしたことで障害によって不可能であったことが可能になったケースが報告されており、能力を伸ばし、能力を活かすための環境づくりは非常にメリットがあり重要である実例が私たちの教育実践活動 **Seven Savants Project** により蓄積されている(幾つかの実例は、下記にて紹介)。また 1 人 1 人のニーズに応じた教育に於いて、優れた能力を伸ばし、活かしていくことも当然のことながら教育現場で求められてくる。しかし、関口(2011)の実態調査では、ほとんどのサヴァンの児童生徒はその能力を伸ばすための支援や教育を受けられておらず、その能力を活かしきれていなかった。また、「なぜ優れた能力を伸ばすための支援や指導を行わないのか」の理由に「障害による困難さの改善克服が最も重要であるから」と回答した教師が非常に多く、優れた能力を伸ばすことにより抱えている困難さ・障害を克服し得るという発想にはあまり現実味を感じられないようである(中には、優れた力を伸ばしても意味がないという回答もあった)。優れた能力を伸ばしたり活かしたりすることは本当に意味がないのか? もしかしたら、そのような発想を障害者の周囲が抱いたとしても、目の前の現実に対応するのに精一杯であるということもあるのかもしれない。いずれにしても、そのような発想―「できないこと」に注目するのではなく「できること」に着目し、その「できること」を更に伸ばすことにより「できないこと」を補う―による障害児教育や障害者支援は“効果”があることを、私たちは実例を基に広く知らしめていきたい(関口 & 有路 2016)。

関口 & 有路 (2016)では、下記の 3 点を狙いとしてサヴァンの児童生徒への実践教育を行い、その結果をまとめた。

1. 学校教育の中でサヴァンの児童生徒の能力を伸ばす必要はあるのか
2. サヴァンの児童生徒の能力を伸ばす支援や指導を教育カリキュラムの中にどのように組み込んでいく必要があるのか
3. サヴァンの児童生徒の優れた能力をどのような方法で伸ばしていくことができるのか

知的障害特別支援学校に在籍する優れた能力を持つサヴァンの児童生徒 3 名(小学部 5 年 男子(自閉症)・中学部 3 年 女子(自閉症)・高等部 1 年 男子(自閉症))に、2011 年 4 月～2012 年 3 月末までの約 1 年間、自立活動の時間に於ける支援・教育として、その優れた能力を伸ばす支援や教育―つまり、「できること」を更に伸ばす教育―を実施した。その際、授業毎にビデオや写真、メモ等で記録を取り、1 カ月に 1 度のペー

スで担任の教師とも面談を行い、当該児童生徒の様子や変化を追い続けた。同時に、他教科や日常生活の指導も行った。なお、その教育実施対象となった3名は、**Splinter skills**(断片的な能力を有するサヴァン症候群者)及び **Talented**(才能のあるサヴァン症候群者)であった。

教育実践事例 1. 小学部 5 年 男子(自閉症)

優れた力

聴覚による記憶力に長け、興味のある人の名前や住所などを一度聞いただけで完璧に覚えることができる。

生活上又は学習上の困難・教育的ニーズ

得られる情報の取捨選択が難しく、周りのあらゆるものが気になってしまったり、不安になってしまったりするため、今やるべきことを行うことが苦手である。言葉の使い方が分からず、悪い言葉を言って周りの人の反応を楽しんでしまう。

支援・指導

- ・長けた記憶力を活かした役割(教員や友達に学校に在籍する児童生徒の名前やバスの路線を必要に応じて教える係など)を与える。
- ・集めた情報を視覚的に紙に書いて整理する。
- ・予定などを写真や絵カードを使って視覚的に提示し、今やるべきことを明確にする。

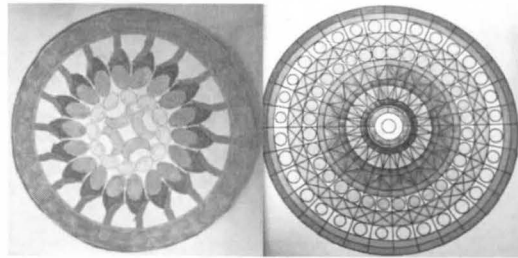
1年後の姿

学校のほとんどの児童生徒の名前やクラス、通学バスの路線、学校に勤める教員全員の名前を暗記し、その知識を活かし『Aさんは1年2組でバスは〇〇線』などと積極的に友達や教師に話しかけるようになった。多くの人と会話をすることで、質問の仕方によって人が嫌がり離れてしまうという経験を積み、人の名前をわざと間違えることが減った。また、覚えた友達や教師の名前をクラスごとに紙に書いて分類し、頭の中の情報を整理できるようになり、パニックも減った。視覚的に情報を整理して予定などを伝えることで、比較的落ち着いて活動に参加できるようにもなり、更には、人から賞賛される経験を積んだことで、頼まれた役割を積極的に果たそうとする姿が見られるようになった。

教育実践事例 2. 中学部 3 年 女子(自閉症)

優れた力

色鉛筆による塗り絵が好きで、同じ力加減で色を均等に枠の中に塗ることができる。幅や空間を的確に捉え、文字数が増えても枠の中に文字を均等に並べてバランス良く書くことができる。



2011 年 6 月の作品

2012 年 2 月の作品

生活上又は学習上の困難・教育的ニーズ

情緒が不安定で、気持ちが落ち込みやすい。「これはこうでなくてはならない」という強迫観念的な気持ちが非常に強く、少しでも自分の考えから外れたことが起こるとパニックになってしまう。自分のやりたいことを複数の選択肢から選ぶことも苦手で、絵に関しても『バナナは絶対に黄色』というように色が決まっており、自分で考えて柔軟に色を塗ることは非常に少ない。

支援・指導

- ・ 60 色の色鉛筆と、自分で色を選んで塗る細かな塗り絵(細かな図形塗り絵やマンダラ塗り絵など)を用意する。
- ・ できた際には、称賛したり、他の先生たちからも称賛されたりする機会を設ける。
- ・ できた作品を飾ったり周りの人たちにプレゼントしたりする活動を設ける。

1 年後の姿

1 年間、細かな図形の塗り絵に集中して取り組み、自分から「塗り絵したいです。」と要求できるようになった。また、一つ一つの色の名前を 60 色すべて覚え、自分で色を選び、「○○色」と色の名前を言いながら枠の中に均等な力加減で色を塗ることができるようになった。回数を重ねるごとに、使用する色の幅が広がり、より細かな塗り絵も綺麗に仕上げられるようになった。更に、周囲の人に作品をプレゼントし感謝されたり、校内に作品を飾ったことで、彼女自身の自己肯定感が高まり、初めての活動にも自信を持って積極的に活動に取り組むことができるようになり、併せてパニックを起こす回数も非常に減った。

教育実践事例 3. 高等部 1 年 男子(自閉症・精神障害)

優れた力

絵が非常に好きである。「湯水のように湧き出る」創作キャラクターデザイン能力に長けている。元はゲームやテレビのキャラクターであったりするが、それに日用品等が融合し、オリジナルのキャラクターを創作する。発想力が非常に優れており、絵の面白さ、オリジナル性が彼独特の持ち味となり、唯一無二の世界観を作り上げている。

生活上又は学習上の困難・教育的ニーズ

他者とのコミュニケーション能力に関する障害があり、人見知りが強く、吃音があり言葉が中々出ない。気持ちに波があり、非常に不安定である。にこやかに挨拶をすれば、ある日には目をつり上がらせ、まったく挨拶を返さずに無視をするということも多々ある。一度この人は嫌な人だと決めつけると、その後徹底的に拒否してしまう。何事にもスローペースで、頑固さや強いこだわりがあり、それらが本人の活動の邪魔をしてしまう。

支援・指導

- ・教室内や廊下、学校内に絵を飾る。
- ・キャラクター制作を通して自分自身の活動に自信を持ってもらう。
- ・みんなそれぞれ違っていいということを伝える。「自分は他の人と違っていて変だ」という思いがあるようだったが、絵の制作を通して「これは A さんにしかできないこと」であり、それが素晴らしいことだということを繰り返し伝える。

1 年後の姿

1 学期に A さんが担任にプレゼントした絵を担任教師が非常に喜び、その後教室内に飾ったことがきっかけで、受け取った人が喜び、掲示された絵を見た友達や教師から賞賛されたことで、彼は次々に絵を描いて持ってくるようになった。褒められたことの嬉しさと、多くの人からの評価、そして評価以前の「人との交流」という点でやりがいを感じ、掲示後には積極さを身に着け、自分に対する自信が持てるようになっていった。また、物怖じしなくなり積極的に自分を出せるようになった。以前は洋服選び等は親任せであったが、「もう子どもじゃないんだから」と言い自分で選ぶようになり、寧ろ親が選んだものを嫌がるようになった。自分から人に笑顔で話しかけることも日常的になり、吃音も不思議なことに少なくなった。また、自分からお世話になった人に握手を求めるなど、積極的に他者とコミュニケーションを取るように変化した。能力についても、キャラクターが以前よりもかなり独創的になり、4 コマ漫画や新聞仕立てにする等、表現手法の幅も広がった。

これら 3 つの教育実践事例からわかるように、優れた能力を伸ばすように支援する・その優れた能力を活かした学習を取り入れる教育を行うことで、結果的に多くの効果が得られている。その「できること」を伸ばす教育の結果得られた効果は以下の

5 点に要約できる。

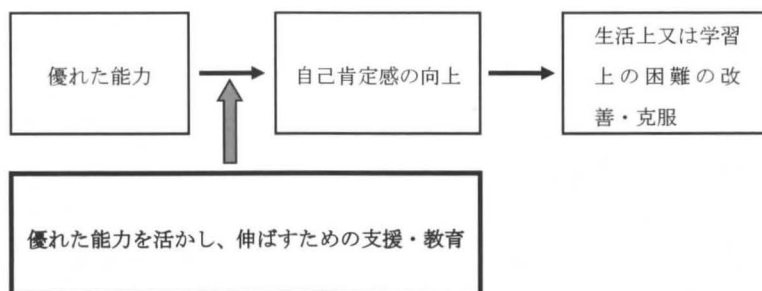
- ① 能力そのものが向上し、より独創的になる。
- ② 今まで障害により困難であったことが軽減され、「できなかったこと」が「できる」ようになる。
- ③ 毎日支援や教育に関わることで、児童生徒の変化を細かく追え、その都度適切な支援や教育を行うことができる。
- ④ 教育の場で支援や教育を行うため、人と人との関わりの場面が必然的に必要とされ、自閉的傾向を示す児童生徒にとっては、コミュニケーション能力を向上させることができる。
- ⑤ 将来に活かせる能力を育てることができる。

以上に要約した 5 点の支援効果・教育効果からも、「できないこと」に固執するよりも、より「できること」を見つけ、その優れた能力を伸ばすことの魅力は多々あると考える。¹⁴

このような教育実践を行うと、サヴァンの児童生徒の能力を伸ばす前に、まず子どもの優れた能力に“気づく”ことが非常に重要であることに気づく。そして、将来の社会参加に向けて育みたい力を明確にし、優れた能力を就職や余暇活動に活かしていけるような視点で支援や教育を考えることが重要であることを改めて強調したい。最後に、今回の実態調査(関口 2011)及び教育実践事例(関口& 有路 2016)からサヴァンの児童生徒の優れた能力を伸ばす方法として以下の 7 点を提言したい。

- ① よく観察し優れた能力に気づく。
- ② 子どもの能力を認める。
- ③ 将来の社会参加に向けて、どのような力を育み養いたいのかを明確にする。
- ④ 子どもの優れた能力を活かした役割や活動を設定することで活躍する場面を設定する。
- ⑤ 子どもの作品や活躍を掲示し、多くの人に見てもらい、褒められる機会を設定する。
- ⑥ 具体的で適切な評価・フィードバックを頻繁に行う。
- ⑦ 必要に応じて専門的な助言・指導を行う。

上述の3つの教育実践事例から、優れた能力を示す児童生徒への支援や指導においては、「自己肯定感の向上」が重要なポイントになったことが得られた。「できないこと」や生活上又は学習上の困難さばかりにアプローチを行うのではなく、優れた能力へアプローチすることにより、「できないこと」や生活上又は学習上の困難さが改善され克服することさえできたのである。



特異的な優れた能力を持つ児童生徒への支援や教育は、何も優れた能力を持つ子どもだけでなく、障害の有無に関わらず、すべての子どもたちにとって有益な視点である。「能力を認め、褒め、伸ばす」ということは、専門家でなくとも、教師や保護者でも誰にでもできることである。寧ろ近くにいる人、つまり教師や保護者にこそ、行えることである。

学習指導要領の改訂に伴い、障害特性を踏まえた個に応じた支援や教育が重要視されている。サヴァン症候群も障害特性の一つとして捉え、サヴァンの児童生徒の能力に教師が気づけるよう、そして適切な支援や教育ができるように、サヴァン症候群という「障害」について正しく理解されるように、本当の障害者像を社会に広めていく必要がある。支援や教育の際には、今その子にとって何が必要で、将来に優れた能力をどう活かせるかという視点を忘れずに支援や教育を行えば、その優れた能力がその子の謂わば強みとなるのである。弱みを補足するのではなく、強みを養うことこそ、障害児教育での基本的な教育方法である。

注

¹ 関口(2011)によるサヴァン症候群の実態調査は、永松裕希教授(現・信州大学教育学部長)の御指導に寄与するところが大きい。ここに改めて感謝申し上げる。

² 中でも「Beautiful Minds: A Voyage Into The Brain 制作：BBC(イギリス・2006年)」「Brain Man 制作：Channel4(イギリス・2004年)」や「The Real Rain Man 制作：Discovery Health Channel(アメリカ・2006年)」は秀逸である。

³ 本稿の主旨にても記載したように、本稿が扱う主たるデータは、関口(2011)によるものである。

⁴ 具体的には、Treffert(2011)を参考に7つの能力別に全40問の質問項目を作成(cf. Treffert 2011; 20-23)。

⁵ 対象児童生徒と同じ年齢の健常児には実現可能な能力を有する場合や、同じ障害のある児童生徒たちと比較して優れている場合は、「1 同じ 障害・知的発達・同年齢集団と比べて顕著に優れて

いる」に該当する。この場合、サヴァン症候群とはせず、「その子にとっての得意な力」として扱った。また年齢が低いと能力の程度も低い可能性があり、年齢を重ねると共に得意な力が伸び健常児の能力を超えていく可能性もあるため、敢えて「1 同じ」の項目を設定した。

- 6 本調査では、**Prodigious** (驚異的な能力のあるサヴァン症候群者) の分類は質問紙だけでは判断が困難なため、**Talented** (才能のあるサヴァン症候群者) に該当する児童生徒を、今後 **Prodigious** に該当する可能性があるものとして扱った。
- 7 本実態調査によるサヴァンの児童生徒 72 人とは、聴取調査にて「今まで関わった特異的な能力がある児童生徒の年齢と能力」で回答が得られた児童生徒数である。
- 8 本実態調査では障害の診断を受けた児童生徒のみを対象とし、障害の診断を受けていない児童生徒及び特異能力が「1 同じ 障害・知的発達・同年齢集団と比べて顕著に優れている」のみに該当しているサヴァン症候群と断定できない児童生徒は対象としない。
- 9 その他の能力として 4 人の児童生徒が該当した。回答された具体的な児童生徒の能力は、例えば、職員の家族構成等を非常に良く記憶し、数年経って会った時にも覚えていて、その際過ぎた年月を加えて「○○ちゃん (娘の名) 今度中学生だね」と話して来てくれた生徒や、日本語以外の言語の会話を覚え話したりする生徒、漢字の読み仮名の違いを瞬時に見つけられる生徒などが報告された。
- 10 「記憶」に関する特異能力についての聴取調査にて、「ある特定の時代や地域などの歴史的事実に強い興味を示し、暗記している。」(調査項目 問 4) ・「電車やバスの時刻表に強い興味を示し、暗記している。」(調査項目 問 6) ・「今までの天気を暗記している。」(調査項目問 8) では **Splinter skills** (断片的な能力を有するサヴァン症候群者) で該当者なしであった。同様に「多くの特定の人物の生年月日に強い興味を示し、暗記している。」(調査項目 問 5)にてサヴァン予備軍にて該当者なしであった。
- 11 31 人とは、児童生徒の能力の種類と程度に関する詳細な回答が得られた 51 人の児童生徒の内、学校内外にて特別な支援を受けていたかどうかに関して詳細な回答を得られた児童生徒数のことである。
- 12 僅かではあるがサヴァンの児童生徒が受けた具体的な支援や教育として、細かいこともコツコツこなしていたので、その力を生かして働けるように中学部までに力をつけた例や、音楽の発表の機会を意図的に設けたり、郊外の機関が主催するコンサートへの出場を促したりした例、個別の学習の時間でキーボードを弾く時間を一定期間のみ設けた例、着色に際しては可能な限り数多くの着色剤を用意し、コンピュータを使って画像処理をする際には、目的に沿った操作法を師範した例などがあった。
- 13 サヴァンの児童生徒の卒業後
今回の実態調査でサヴァンの児童生徒の卒業後の様子も得られた。

C1 記憶・カレンダー計算の能力を持つ自閉症の男子

高等部に入学し、ミシンの技能を生かし縫製会社に就職したが、その会社が倒産してしまってから行き場がなく家にいる。

C2 アスペルガー症候群と思われる記憶の能力を持つ男子

自分で他人の発言を文字化して、HP に載せて紹介しているうちに、迷惑行為となって問題化し、悩み、自分で仏の発言(仏典)を研究し宗教界で活躍し始めている。

C3 記憶の能力を持つ自閉症の男子

高等部卒業後、C3 の学年は毎年学級会をやっているが、C3 は欠席が続いている。
こだわりが強い自閉症であることから、親子さんが消極的になっているのかもしれない。

今回の調査では、サヴァンの児童生徒の中で、その能力を活かし就労しているケースは1例もなかった。

- ¹⁴ 今回の教育実践は、主に自立活動の時間の中で行った。最近では肢体不自由だけでなく、知的障害特別支援学校においても自立活動の時間が重要視されており、高等部の生徒全員に自立活動の時間における指導を行っている学校も増えてきている。そのため、自立活動の時間が確保しやすくなっている。「できること」を伸ばす支援・教育は、日常生活の場面だけでなく、児童生徒一人一人にじっくりと関わることでできる自立活動の時間が適当である。

参考文献

1. 有路憲一 2013. 脳と藝術 理性と感情の対話—アールブリュットの視座. *Journal of Humanities and Social Sciences* 7, 189-204.
2. 関口あさか 2011. 「持てる才能を最大限に引き出す学校教育—サヴァン症候群の児童生徒への支援指導」信州大学.
3. 関口あさか & 有路憲一 2016. サヴァン症候群の児童生徒に関する実態調査—知的障害特別支援学校に在籍するサヴァン症候群の児童生徒への支援及び指導の実態. 特殊教育学会第54回大会, 3-19.
4. OECD 2007. Knowledge Management: Evidence in Education—Linking Research and Policy. OECD Publication.
5. Treffert, D. A. 2000. *Extraordinary People: Understanding Savant Syndrome*. iUniverse.
6. Treffert, D. A. 2011. *Island of Genius: The Bountiful Mind of the Autistic, Acquired, and Sudden Savant*. Jessica Kingsley Publishers.
7. Treffert, D. A. & Wallace, G. L. 2004. Islands of Genius. *Scientific American MIND* 14(1), 14-23.

(有 路 憲 一 信州大学 総合人間科学系 全学教育機構 准教授)
(関 口 あ さ か 埼玉県立熊谷特別支援学校 教諭)
2016年1月12日受理 2016年2月14日採録決定